

環境文化都市やいた環境教育推進事業

事業代表者 宇都宮大学農学部応用生命化学科・教授・飯郷雅之

構 成 員 環境文化都市やいた創造会議・理事長・小川修市

矢板市くらし安全環境課・環境担当・手塚智紀

1. 事業の目的・意義

矢板市は平成27年3月に矢板市環境基本計画を策定した。「環境文化都市 やいた 人・自然・協同 みんなで創る 未来へつなげる」を環境の将来像として、「人をつくる」、「環境を創る」、「暮らしを造る」をめざすまちの姿として掲げている。この基本計画を実現すべく、市民団体「環境文化都市やいた創造会議」が平成27年10月に結成された。この会議では、矢板市民、矢板市役所職員、宇都宮大学教員・学生が連携して地域の課題、中でも環境関連の課題の解決を目指している。

本事業は、矢板市が策定した「環境基本計画」の理念に基づき、市民の環境保全意識向上および人材育成のため、宇都宮大学と矢板市が共同で環境教育を行うことを目的とする。宇都宮大学が地域に密着した教育研究活動を行うためのネットワークづくりにも貢献できる事業である。

2. 事業内容

(1) 環境教育プログラムの開発と実施

矢板市にて行われる「環境文化都市やいた創造会議」（理事長：小川修市）に参加し、宇都宮大学農学部の教員と学生が参加し、地域住民と共に地域を活性化し、持続可能な社会を構築するための活動を立案した。道の駅やいたエコモデルハウスにおいて、平成30年4月23日に理事会が、平成30年5月29日に総会と平成29年度矢板市自然環境概況調査報告会が開催された。地域デザイン科学部の3年生10名も参加した。平成30年7月16日に塩田ダム周辺において「水辺の生き物調査&カヤック体験」を、平成30年8月11日に川崎城跡公園周辺において「川崎城跡公園の大そうじ&川遊び」を開催した。また、道の駅やいたエコモデルハウスにおいて平成30年9月21日に打ち合

わせを行い、平成30年11月25日にバイオマスホフたかはら周辺で「森を育てる人に会いに行こう」を開催した。さらに道の駅やいたエコモデルハウスにおいて平成31年1月24日に打ち合わせを行い、平成31年2月3日に山の駅たかはら周辺で「外で遊ぼう。やいたの冬がやってきた」を開催した。

3. 事業の進捗状況

(1) 環境教育プログラムの開発と実施

水辺の生き物調査&カヤック体験

高原山の麓に位置する矢板市塩田地区は、山の恵みである豊富な湧き水と肥沃な土壌に恵まれていたため、昔から米の収穫量が多い土地である。豊かな自然環境に恵まれていることから、「とちぎのふるさと田園風景100選」にも選ばれている。そこで、本イベントの環境教育プログラム作成では、塩田地区のさまざまな生物を採集し、観察する生物多様性調査「生き物調査」を宇都宮大学の学生が主体となって運営した。また、塩田地区には矢板市の管理する農業用ダム「塩田ダム」がある。理事を務める Omuche Outdoor&Sports Club の漆原邦和さんがカヤックの専門家であることから、ダム湖でのカヤック体験と組み合わせた環境教育プログラムを平成30年7月16日に実施した（参加者42名：大人15名、こども27名）。

開会式の後、参加者を2つのグループに分けて各2時間のプログラムを交互に実施した。水辺の生き物調査では、塩田ダム周辺に生息する生き物の調査を行った。参加者には虫取り網や虫かご、魚とり網を貸し出し、参加者自らの手で矢板市の生き物と触れあった。各グループ2時間の調査時間内で、ヤマメ、カジカ、オニヤンマなどの生物を採集した。調査後は、生き物の名前や特徴などの解説と、事前に用意したワークシートに参加者

が生き物をスケッチした。

カヤック体験では、Omuche Outdoor&sports Clubのご協力の元、特別に許可を頂いた塩田ダムでカヤック体験を実施した。参加者はカヤック用のジャケットを着用し、1~2人乗りのカヤックに乗り込み、パドルを使ってカヤックを操作した。このイベントでは、地域おこし協力隊の隊員によりドローンによる撮影も行われた。

川崎城跡公園の大そうじ&川遊び

川崎城跡公園において毎年8月下旬にあんどん祭りが開催される。そこで本年度は平成30年8月11日に日程を設定し、お祭りに先駆けて大掃除を行うとともに、生き物調査と川遊びを行った(参加者20名:大人8名, こども12名)。このイベントのスタッフとして、我々の研究室のメンバーに加えて、農学部応用生命化学科の2年生4名がボランティアとして参加してくれた。

開会のあいさつの後、全員で駐車スペース周辺の草取りを行った後、大人の参加者およびスタッフは草刈機を用いた除草作業を行った。こどもたちは、我々スタッフとともに里山の雑木林に出かけてカブトムシ、カナブン、オオムラサキなどの昆虫を採集した。その後、Omuche Outdoor&sports Clubの漆原氏の指導の下、救命胴衣を着用し、川で流されたときにどのようにセルフレスキューを行うのか実技講習を受けた。川の流れに乗って流されてみる体験を行ったときのこどもたちの笑顔が印象的だった。さらに、救命胴衣を着用したまま、ガサガサにより水生生物の捕獲を試みた。その結果、メダカ、ヨシノボリ、アメリカザリガニなどが採集された。調査後は、生き物の名前や特徴などの解説と、事前に用意したワークシートに参加者が生き物をスケッチした。

森を育てる人に会いに行こう

(株)トーセン、湧水の郷塩田環境保全会、NPO法人エヌ・かんぱにい、木の駅プロジェクトのご協力の下、平成30年11月25日にバイオマスホフたかはら周辺で大木の伐採見学をメインとした環境教育イベントを開催した(参加者83名:大人

55名, こども28名)。開会式の後、塩田ダム周辺の森に移動し、スギの大木の伐採を見学した。樹高および年輪あてクイズも行った。樹高は30メートル以上、年輪は85本の古木であった。大木抜倒後は、大人チームは本格的な伐採体験、子供チームは森遊びに分かれた。MooraBeatの深澤氏の指導の下、「現役猟師と歩く道のない森歩き」を楽しみ、フクロウの巣箱をかけた森でハンモック体験を楽しんだ。バイオマスホフたかはらでは、地元のみなさんが、食材の調理を行って下さり、餅つき、焼きそば、けんちん汁、BBQ、特産のリンゴなど豪華な秋の食材を用いたランチが振る舞われた。その後、希望者はリースづくりを楽しみ解散した。外で遊ぼう。やいたの冬がやってきた

平成31年2月3日に開催した。参加者は30名(大人21名, こども9名)であった。快晴の空の下、山の駅たかはらで開会式の後、各自スノーシューを着用した。道すがら見られるアニマルサインを探しながら、標高1100メートルの展望台まで往復2.6kmのスノーシュー体験を楽しんだ。展望台では節分の豆まきも行った。

4. 事業の成果

参加者から、環境教育プログラムを継続的に実施して欲しいとの強い要望が上がっていたため、昨年度までの環境教育活動の内容を継続して実施した。参加者にはリピーターも多く、本事業で実施した環境教育プログラムは、矢板市民が地域の自然に改めて目を向けるきっかけになったと考えられる。

5. 今後の展望

今後も宇都宮大学から教員および学生が積極的かつ継続的に環境文化都市やいた創造会議に参加し、矢板市の地域活性化のため、様々な地域活性化プランを立案し、イベントの実施を行っていく必要があると考えられる。宇都宮大学が地域に密着した教育研究活動を行うためのネットワークづくりに今後も貢献する。

7/16 水辺の生き物調べ&カヤック体験

●参加者:42名(大人15名/こども27名)

●当日のプログラム

①開会式

②生き物調査&カヤック体験

参加者を2グループに分け,
2時間ごとに交代して実施.

③閉会式&記念撮影



8/11川崎城跡公園の大そうじ&川遊び

●参加者:20名(大人8名/こども12名)

●当日のプログラム

①開会式

②生き物調査

&大そうじ・川遊び

③閉会式&記念撮影



11/25 森を育てる人に会いに行こう

●参加者:83名(大人55名/こども28名)

①開会式

②大木の伐採見学・間伐材の搬出作業&ハンモック体験

③秋の食材を用いたランチ

④リースづくり



2/3 外で遊ぼう. やいたの冬がやってきた

●参加者:30名(大人21名/こども9名)

①開会式

②スノーシュー体験 & アニマルサインを探せ!

③閉会式

